

3. 結論

・ 1930年代におけるブライネスの思想的変遷

商業主義批判/モダニズムへの素朴な期待 → インターナショナル・スタイル批判/科学的シェルターの普及による社会改革 → マルクス主義への転向/労働組合運動への期待

→初期の言説から意識されていた（下）、建築とそれを取り巻く社会的条件の関係についての認識の変化（深化？）

「（……）建築を超えて、われわれがそのもとで生活し、建設している社会・経済システムが存在する。われわれの建築を取り巻く諸悪は、多かれ少なかれわれわれの時代の諸悪に直接起因する。ビジネス競争、金融と信用と近代的システム、そして当世の哲学といったものが、われわれの建築をかたちづくる要因である。これらの諸力についてわれわれは制御する術をもたず、ただそれらの変化にともなって建物に変異が生じるというだけである。」（Breines 1931）

・ 1930年代以後のアメリカにおけるモダニズムの展開を単純に新たな「スタイル」の輸入と捉えるのは一面的 / 当時の議論の複雑性を明らかにすることは、第二次世界大戦後への展開含め近代建築運動の全体像を捉え直すことにつながる